

年間第2主日 ヨハネ 1:29~34 証しの書、「水の洗礼」と「聖霊の洗礼」

ヨハネ福音書では、誰かがイエスを紹介し、証しします。今日の福音では洗礼者ヨハネが、イエスを紹介し、どんな方が証しています。だから「証の福音」と言われます。他にもイエスを紹介する人たちがいます。アンデレは自分の兄弟シモン・ペトロにイエスを紹介します。(1:40~42) フィリポはナタナエルに(1:43~51) イエスを紹介します。イエス様は、自己紹介ではなくて人からの紹介で自分はどんな人か伝えていきます。私たちにも同じことが言えます。イエス様がどんな方なのか？ 人に紹介し、証しするミッションがあります。

では、洗礼者ヨハネは、どんな人物だったでしょう？ 彼は毎日信仰から引き離すものと闘っていました。ヨハネがいた荒野は、さまざまな誘惑の棲みかです。空腹やのどの渇き、物、金、名誉心などの誘惑から攻撃を受けていました。そんなヨハネは善人(麦)と悪人(殻)を選び分ける神の審判が迫っていることを人々に呼びかけます。「神の怒り・裁きが近づいている」。神の最終的な裁き(審判)の前に、罪は隠せない、逃げられない。だから繰り返し「悔い改めなさい」を呼びかけ「水の洗礼」を授けます。けれども「水の洗礼」に罪をゆるす力はない、と考えていました。罪をゆるせるのは神だけ。そう心得ていました。そして、「罪をゆるせる」イエスを人々に紹介します。

イエス様は「神の愛とゆるし」を説きます。そして「罪のゆるしの洗礼」を授けます。洗礼者ヨハネが、「裁き」を前にして悪く言えば「脅しの洗礼」なのに対して、イエス様の洗礼は「恵みの洗礼」です。洗礼で「聖霊による恵み」をいただいています。

聖霊には、4つの恵みがあります。1つ目の恵みは、私たちを正しい方向へ導いてくれることです。聖霊が、救いや真理に到達させてくれます。聖霊の恵みがないと「闇」の中に入って方向感覚を失います。仕事中毒という言葉があります。仕事を一生懸命していても、自分の人生がどこに向かって進んでいるのか分からなくなっています。聖霊は、このような「闇」の状態、暗中模索で走り続ける状態から抜け出て、神様がいらっしゃる場所へと案内してくれます。

2つ目の「恵み」は、自分を一つにまとめる力です。どこに向かって生きているのか分からないと、やっていることに一貫性がなくなっていく。今の苦しみにから抜け出すためにいろいろなものに手を出す。けれども、すぐに飽きて、別のものにも乗り換えてしまいます。聖霊は、バラバラの自分を1つにまとめあげていきます。

3つ目の「恵み」は、刷新する力です。環境に慣れてくるとマンネリ化に陥ります。淀んだ雰囲気の中にと、改善するよりも、このままでいい理由を挙げたがります。あるいは複雑に物事を考えすぎてしまいます。聖霊は、新しいものの見方を提供してくれます。シンプルに見つめ直して問題点と改善方法を指し示してくれます。

4つ目の「恵み」は、慰める力、勇気づける力です。「慰め主、聖霊」です。神様のために無理してでも働いている私たちを慰めてくれます。余裕がないのにがんばっても、思うような反応がないと「無駄なことをしたのか？」とがっかりすることがあります。余計なことしなければよかった、と疑問を持つこともあります。そんな時に聖霊が私たちを慰めてくれます。「あなたは、私の愛する子」と労をねぎらってくれます。

私たちは「水の洗礼」にはない「聖霊の恵み」はいただいています。イエス様からいただいたこの恵みを人に紹介して、イエス様を証ししていきましょう。